

- | | |
|---|----|
| 1. 全ての事物は相互に依存し合っていること。 | 1 |
| 2. 四つの普遍的真理。語義：諦（あきら）める→明らかにする→真理 | 2 |
| 3. 四諦の一つで、「生きることは苦」（結果）。 | 3 |
| 4. 四諦の一つで、「苦は煩惱から生じる」（原因）。 | 4 |
| 5. 四諦の一つで、「煩惱を滅ぼすのが悟り」（目的）。 | 5 |
| 6. 四諦の一つで、「悟りは八正道による」（手段）。 | 6 |
| 7. 四諦の道諦が示す悟りの手段で、八つの正しい修行方法。苦行や快樂の両極端を否定する中道の思想がみられる。 | 7 |
| 8. 八正道の一つで、「正しい生活」。 | 8 |
| 9. 八正道の一つで、「正しい思惟（正思）を念じて記憶し失わない」。 | 9 |
| 10. 八正道の一つで、「正しい瞑想（座禅）」。語義：定（じょう）は禅定。 | 10 |
| 11. 苦行や快樂などの両極端を否定する思想。 | 11 |
| 12. 与楽抜苦（よらくばっく）の仏教愛。語義：慈「与楽」と悲「抜苦」。
関連語：エロース、フィーリア、アガペー、仁 | 12 |
| 13. 仏（ブツダ）・法（仏教の教え）・僧。 cf. フッホウリウ鳥（鳴き声から） | 13 |
| 14. 在家（ざいけ 出家しない）の仏教徒が守るべき五つの戒律。不殺生・不偷盗（ふちゅうとう）・不邪淫・不妄語・不飲酒（ふおんじゅ）。 | 14 |
| 15. 自己の救済（悟り）を目的とする戒律厳守の保守的仏教。 | 15 |
| 16. 小乗仏教の理想の境地で、「修行で悟った人」。 | 16 |
| 17. 生きとし生けるもの全ての救済（とそれを通しての自己の悟り）を目的とする自由度の大きい戒律の教えを守る革新的仏教。 | 17 |
| 18. 大乘仏教の「生きとし生けるもの全て」。 | 18 |
| 19. 大乘仏教の理想の境地で、「利他行を實踐して悟りを求める求道者」。 | 19 |
| 20. 布施（ふせ 施し）・持戒（戒律を守る）・忍辱（にんにく 迫害や困苦に耐える）・精進・禅定・智慧（空を悟る 般若<はんにゃ>が別名）。 | 20 |
| 21. 縁起説を深化させた、大乘仏教の根本的思想。存在するもの全ては固定的で不変の実体を持たないということ。 | 21 |
| 22. PERSON 2・3世紀、南インドの大乘仏教思想家で、空の思想を確立。 | 22 |
| 23. 空の思想を表す、初期の大乘經典である『般若（はんにゃ）經典』中の言葉。般若とは「全てが空であることを悟る智慧」の意味。 | 23 |
| 24. BOOK 空の思想を確立した竜樹の主著。 | 24 |
| 25. PERSON 4世紀、インドの大乘仏教思想家で、兄の無着（むじゃく アサナガ）とともに唯識論を確立。 | 25 |
| 26. 全てのものは心のはたらき（認識する主観）の所産とする考え方。事物の実在性を否定し、「ただ（唯）、心（識る）」の実在性を強調。唯心論的。 | 26 |

T. Q. 「ブツダが説いた四諦（説）とは何か？」

T. A.

人生の真相は苦しみであるとする真理（苦諦）、全ての苦の原因は煩惱であるとする真理（集諦）、苦しみを滅ぼし尽くした涅槃が目標であるとする真理（滅諦）、苦を滅ぼす手段には八正道しかないとする真理（道諦）。これら四つの真理を説法のために示した教理が四諦説である。